

# 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

資料2

## 《令和2年度の当初目標》

10年間の取り組みをふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチック問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

〈テーマ〉

〈解決手法〉

ごみの問題

- ごみの質も以前とは変化してきている。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

豊かな海の再生に  
向けた取り組み

- アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識の周知を行う。

海と人の絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- 土砂移動に関する情報共有を行う。

## 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

海部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第43回WG（27名）	7月20日（火） 13:00-15:30	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第44回WG（22名）	9月15日（火） 14:00-16:10	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第45回WG（16名）	10月27日（火） 11:00-18:00	・西尾市佐久島
第11回海部会 まとめの会（18名）	12月15日（火） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

# 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ごみの問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <ごみの問題での課題の共有>

- 愛知・川の会の近藤朗氏より、四日市大学が実施した伊勢湾・三河湾におけるマイクロプラスチックの調査結果の概要について、情報をご説明いただいた。
- 西尾市佐久島を訪れ、海岸における漂着ごみの現状やごみ問題の啓発について、話し合いを行うとともに、現地視察を行った。



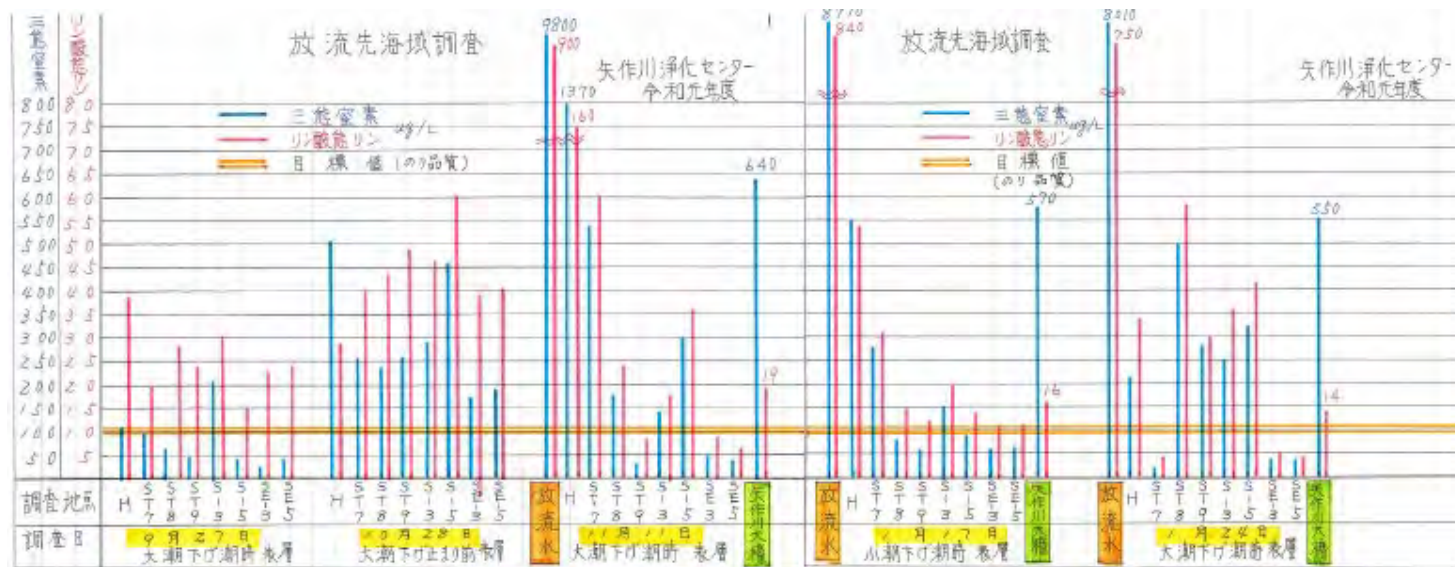
漂着ごみに関する現地視察（佐久島）

# 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

豊かな海の再生に向けた取り組み | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識の周知を行う。＞

- 吉田漁業協同組合の石川甚右衛門氏より、矢作川浄化センター放流口～放流先海域における窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、ご説明いただいた。
- 西三河野鳥の会の高橋伸夫氏より、佐久島に生息する鳥類について、ご説明いただき、環境と鳥類の変化について、意見交換を行った。





# 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

海と人の絆 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす>

○ バスツアーについて、吉田海岸におけるアサリや野鳥の情報共有を計画した。

<海と人の絆の再生に向けた情報共有を行う>

○ 西尾市佐久島で自然科学を取り込んだアート作品や、滞在型農業体験施設を視察し、三河湾と河川域の住民との交流手法について、情報共有を行った。



カモメの駐車場



おひるねハウス



佐久島クラインガルテン

# 4. (2) 海部会の次年度の活動目標 (案)

## 次年度の活動目標 (案)

- 今までの取り組みをふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

## テーマ別の活動目標 (案)

### ■ごみの問題

- ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

### ■豊かな海の再生に向けた取り組み

- アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではない、という認識の周知を行う。

### ■海と人との絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる、上下流連携をめざす。
- 外部への発信を行う。

### ■土砂の問題

- 土砂移動に関する情報共有を行う。

# 4. (4) 矢作川流域圏懇談会10年誌について

## 【矢作川流域圏懇談会10年誌 編集委員会・座談会】

2020年の夏に矢作川流域圏懇談会が10年目を迎えました。今年度も流域圏担い手づくり事例集の制作に携わってきたメンバーが編集委員（浜口美穂委員長、洲崎燈子委員（山）、近藤朗委員（川）、高橋伸夫委員（海））となって10年誌の制作にあたりました。

### 【編集委員会の実施】

第1回：令和元年8月3日	第2回：令和元年9月6日	第3回：令和元年11月7日
第4回：令和元年12月23日	第5回：令和2年1月31日	第6回：令和2年3月1日

パイロット版

第7回：令和2年6月5日	第8回：令和2年7月4日	第9回：令和2年8月1日
第10回：令和2年9月5日	第11回：令和2年10月24日	第12回：令和2年11月7日
第13回：令和2年11月20日	第14回：令和2年12月17日	座談会：令和2年7月22日

今年度対応



矢作川流域圏懇談会10年誌（表紙）



矢作川流域圏懇談会10年誌編集委員会 話し合いの風景



# 4. (4) 矢作川流域圏懇談会10年誌について

## 別添資料

「矢作川流域圏懇談会10年誌をご覧ください」

もくじ

プロローグ 矢作川及び流域の概要

- (1) わたしの矢作川流域物語
- (2) 矢作川流域圏懇談会とは
- (3) 各部会10年のふりかえり
- (4) 想いの源流を探る「キーパーソンヒアリング」
- (5) 担い手づくり事例集から見えてきたもの
- (6) 新たなステージへ

10年の成果だけでなく、  
苦勞したところも記録  
して、他流域の読者が  
同じような会をつくった  
時、参考になるような  
冊子にしよう！



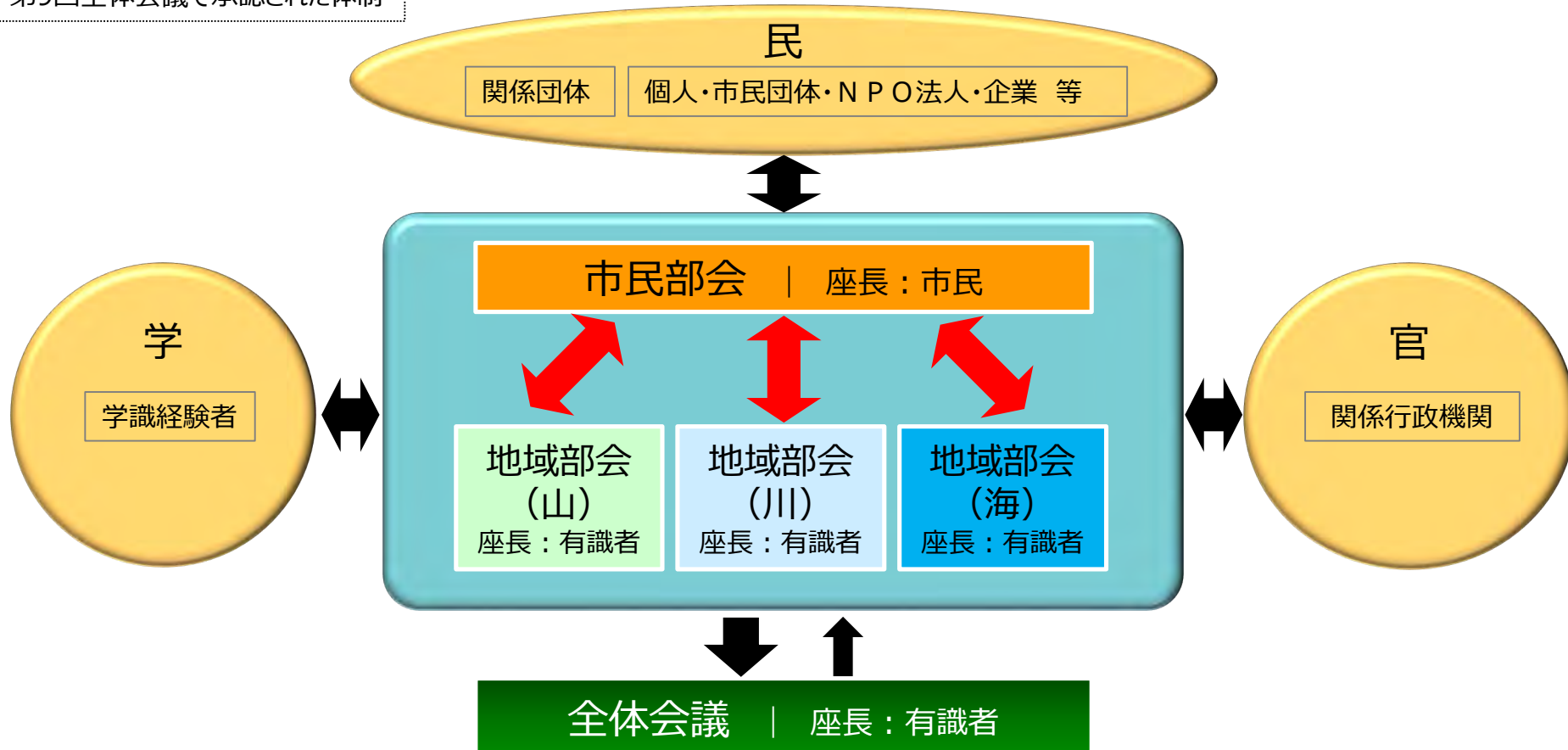


# 5. (1) 今後の体制等について

## ■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。

第9回全体会議で承認された体制



# 5. (1) 今後の体制等について

## ■ スケジュール案

- 市民部会は、WG2回、まとめの会1回を実施するとともに、勉強会(●)を2回、バスツアー(●)を1回行う。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、各4回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を12月頃に実施する。
- 全体会議を2月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントを2回実施する。
  - ①矢作川感謝祭 (夏)    ②三河湾大感謝祭 (秋)

体制・イベント		月												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		
市民部会	WG	←-----●-----●-----→												
	勉強会													
	まとめの会											●		
地域部会	WG	←-----→												
	フィールドワーク													
	まとめの会											●		
全体会議	話し合いの会													★
流域連携に関するイベント							①		②					